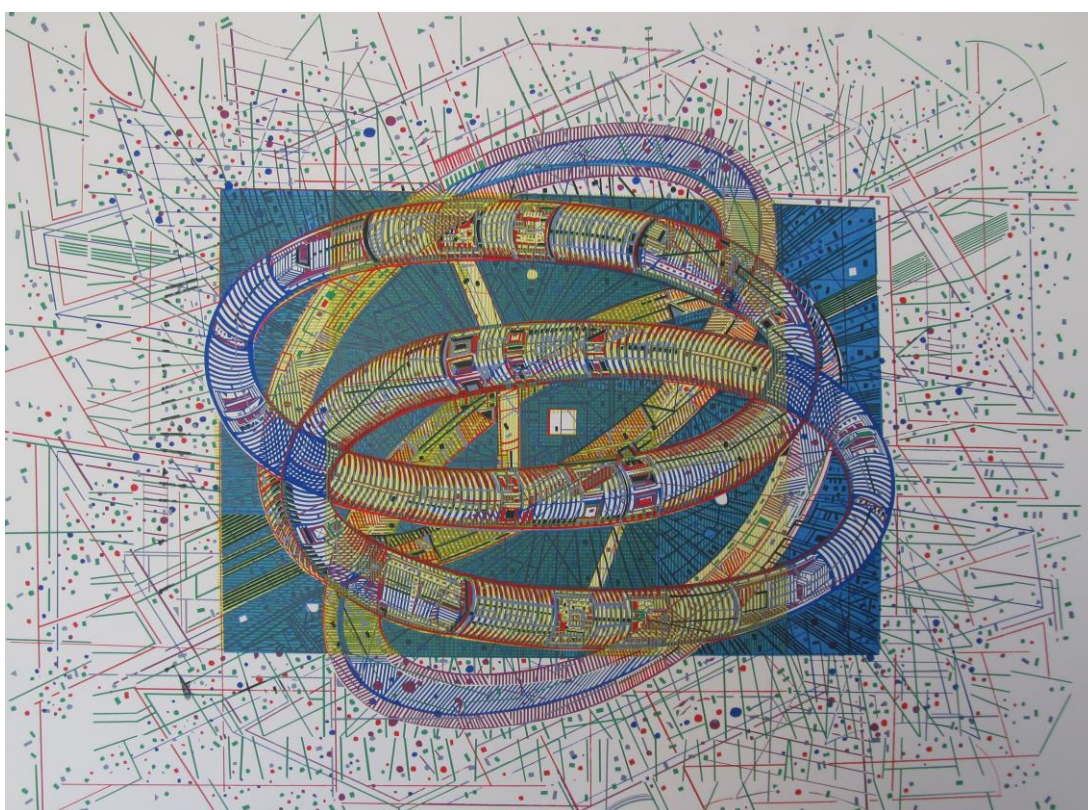


2019 年度 複合文化論系 論系ゼミ要項



木村利三郎 《City424》

最新情報は、論系ゼミ／ゼミ論文／卒業研究 Web ページ
で随時確認するようにしてください。



早稲田大学 文化構想学部

2018 年 9 月 (作成) 早稲田大学文学学術院事務所

1	担当教員	科目名	定員
	上野 和昭	言語文化ゼミ（ことばの歴史・ことばの地理） 副題： プログラム：言語文化	10～15 名

授業内容

2019 年度は、担当者が特別研究期間であるので、非常勤講師による文献資料を中心にした授業が行われる予定である。以下に記すところは、例年ゼミをどのように進めてきたかについて述べたもので、2019 年度は、履修者と担当者との間で話し合ったうえで決定する。

【3 年生】

地域言語調査と文献調査の方法を、実習・演習形式の授業をとおして身に付けるようにしている。

例年春学期には、3 年ゼミ生全員参加で、いずれかの地域で言語調査を実施する（合宿）。これまでに「群馬県西南部地域言語調査報告書」「静岡県伊東市言語調査報告書」「長野県東信濃地域言語調査報告書」「首都圏三代の言語調査報告書」「安房館山市言語調査報告書」「安房鴨川言語調査報告書」を作成してきた。2018 年度は東京都あきる野市の五日市地区で言語調査を実施した。

また、秋学期には、特定の文献資料を取りあげ、それを解説し、その内容を検討する。これまでに『安愚楽鍋』（仮名垣魯文）や『浮雲』（二葉亭四迷）の言語表現を調べた。また『唱歌と国語』（山東功）、『漢文脈と近代日本』（齋藤希史）、『見えない文字と見える文字』（佐藤栄作）、『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』（金水敏）、『新・敬語論』（井上史雄）、『音とことばのふしぎな世界』（川原繁人）などを輪読して批判的に検討した。

【4 年生】ゼミ論を構想し、完成することを目標にする。

春学期には、日本語研究と交差させるもう一つの要素を考えてゼミ論を構想し、試行的研究を始める。構想ならびに試行的研究の内容は、ゼミ生全員の前で発表して、質問や意見をきく。

秋学期は、ゼミ論の途中経過を発表する。ゼミ論提出後、3 年生・4 年生全員の参加するゼミ論発表会（合宿）を行う。

シラバス

【3 年生】

例年 4 月・5 月には地域言語調査地を決定して調査内容を決定する。

6 月には実地調査に出掛ける（合宿）。

7 月には、地域言語調査データの整理と分析して調査報告書をまとめるようにしてきた。2019 年度は、文献資料の読解を中心に、学生の要望を聞いてから決定する。また、4 年生のゼミ論構想発表に意見を述べる。

例年 9 月～10 月には、文献資料を定めて読解し、そこにあらわれる言語事象について検討してきた。

10 月～12 月には、上記の資料について各自の調査・考察した結果発表する。また 4 年生のゼミ論中間発表にも意見を述べる。ゼミ論発表会に参加する（合宿）。

1 月には、次年度に提出するゼミ論の構想を練って発表する。



【2017年の秋山郷言語調査のときの写真】

【4年生】

4月・5月は、それぞれゼミ論の構想を検討する。第一次ゼミ論構想発表を行なう。

6月・7月は、試行的研究を始める。試行的研究にもとづく第二次ゼミ論構想発表を行なう。

8月・9月は、ゼミ論を書き始める。

10月～12月は、ゼミ論を完成する。ゼミの時間に中間報告をする。また提出後はゼミ論発表会（3・4年合宿）

1月は、3年生のゼミ論構想を聞き、それについて意見を述べる。



【2016年暮ゼミ論発表会 於 川奈セミナーハウス】

教科書

【3年生】【4年生】 とくに定めない。

参考文献

【3年生】たとえば『日本語の歴史』平凡社ライブラリー、『講座方言学 3 方言研究の問題』国書刊行会など。詳しくは授業で紹介する。

【4年生】たとえば『言語学大辞典』三省堂、『日本語大事典』朝倉書店など。詳しくは授業で紹介する。

評価方法

【3年生】〔1〕ゼミでの積極性 〔2〕調査・合宿などへの参加、積極性 〔3〕調査報告書など

【4年生】〔1〕ゼミでの積極性 〔2〕合宿への参加、積極性 〔3〕ゼミ論への取り組み

関連 URL

<http://www.f.waseda.jp/uenok/>

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】2 学年合同で火曜日の 3 時限に行なう。ただし、場合によっては 4 時限にまで時間を延長することがあるので、その時間はできるだけ空けておいてほしい。

ゼミ紹介

このゼミでは、とくに日本語を対象として「ことばの地理、ことばの歴史」を中心に研究する。3 年生のときは、地域言語調査（言語の地理）と文献の読解・調査・検討（言語の歴史など）とを、ともに全員で学ぶが、4 年生になってからは、そのいずれかを選んで、または両方を関連付けて研究し、ゼミ論を執筆する。複合文化論系という名前にもあらわれているように、日本語研究という「主軸」に、文学・社会学・歴史学・哲学など、学部の授業などから学べるさまざまな学問を「交差」させて、新たな視点から言語に関連する事象を考察することを心がけてほしい。例年 12 月後半に、全員で合宿してゼミ論発表会を行っている。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2 年春学期までの成績を参考にする。
- ・面接を行う。

2	担当教員	科目名	定員
	酒井 智宏	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学） 副題： プログラム：言語文化	10～15 名

授業内容

【3年生】【4年生】ゼミ生が自主的に選んだ統一テキストを輪読します。それを通じて、言語(学)に関する基礎知識および言語学的な議論の組み立て方を少しずつ身につけていきます。

【4年生】上記と並行して、ゼミ論文に向けて各自の研究を進めます。孤独な作業にならないように、一人のゼミ論文構想に対して全員がコメント(レビュー+匿名コメント)を作成し、研究をサポートします。



シラバス

【3年生】4月～7月：文献講読、9月～1月：文献講読と並行して各自の関心領域の絞り込み

【4年生】3年生と合同の文献講読と並行して、4月：ゼミ論文構想 400 字の作成、9月：ゼミ論文第一稿作成、10月～12月：他のゼミ生のコメントに基づきゼミ論文改訂

教科書

【3年生】【4年生】ゼミ長を中心にゼミ生どうして話し合って決定します。

2014 年度：チョムスキー『統辞理論の諸相』[現代言語学の始まりを告げた記念碑的著作です。]

2015 年度：野矢茂樹『語りえぬものを語る』

2016 年度：ラネカー『認知文法論序説』[認知言語学の創始者が自ら書き下ろした概説書です。]

2017 年度：生成文法・認知言語学・日本語学が相互に対話を試みる論文集からいくつかの論文

2018 年度：オースティン『言語と行為』

これまでは生成文法・認知言語学・語用論が中心でしたが、来年度どの分野のテキストが選ばれるかは来年度のゼミ生の関心によります。これまでとカラーがガラッと変わることも考えられます。

参考文献

【3年生】【4年生】授業中に指示します。

評価方法

【3年生】【4年生】毎回の出席を前提としたうえで、[1] 議論への参加度 [3] コメント(レビューシートおよび匿名コメント)、[3] 発表(文献報告、4年生はそれに加えてゼミ論文構想発表)により評価します。

関連 URL

<http://www.tomohirosakai.com>

授業実施曜日・時限（予定）

3 年生は木曜日 5 限、4 年生は木曜日 6 限に登録されますが、合同で授業を行うことが多いので、5 限と 6 限の時間を空けておくことが望まれます。

履修モデル

ゼミと並行して「複合文化論系演習(日常言語の論理学)」「複合文化論系演習(文法の理論)」「認知言語学入門」「語用論入門」「ヨーロッパのことばと文化」などを履修するとよいでしょう。

ゼミ紹介

言語または言語学に何らかの関心のある方のためのゼミです。言語学はみなさんの多くにとって馴染みのない分野ですので、以下 Q&A 形式でゼミを紹介します。ぜひイメージをつかんでください。

Q1. 研究テーマに制限はありますか？

A1. ありません。言語には実にさまざまな側面がありますので、さまざまなアプローチが可能です。担当教員の専門分野は一般言語学・理論言語学・言語哲学ですが、これらを超え出るテーマも歓迎します。これまでに次のようなテーマに関わるゼミ論文が作成されました。音楽と言語、絵画と言語、ジェンダーと言語、バーチャル方言、ファッション雑誌におけるカタカナ表記、やさしい日本語、誤解と語用論、笑いと言語論、日本語の「思う」と「考える」の異同、日本語の疑似条件文、認知言語学、比較言語学 etc.

Q2. 対象とする言語に制限はありますか？

A2. ありません。日本語を含めて世界のどの言語を選んでも OK です。時代も問いません。複数の言語の対照研究や、エスペラントのような人工言語の研究も考えられます。あるいは、対象言語を限定せず、「そもそも言語とは」という一般言語学的・生物言語学的・哲学的な考察も歓迎します。

Q3. たくさんの言語を知っている必要がありますか？

A3. ありません。日本語と大学受験程度の英語力があれば大丈夫です。プロの言語学者の中にも語学が苦手/嫌いな人はたくさんいます。「言語学」と「語学」は違います。もちろん語学が好きな人も歓迎します。英語が得意な人、いろいろな言語を浅く広く知っている人、etc. 各自が特技を持ち寄ってください。

Q4. 語学好きである必要はないとのことですが、では言語の研究にとって必須の能力とは何ですか？

A4. 文献を精読し、誰も正解を知らない問題を発見し、粘り強く丁寧な議論を組み立てて答えを出す科学的・哲学的思考力です。ゼミではこの思考力の養成に重点を置きます。全員が興味をもってこの課題に取り組めるように、ゼミ生が話し合ってテキストを決めます。そうして選ばれた統一テキストを輪読することにより、ゼミ生どうしの横のつながりが深まり、年度毎のゼミのカラーが作られていきます。

選考方法

1. ゼミ志望理由書
2. 2 年春学期までの成績を参考にする。
3. 面接を行う。

以 上

3	担当教員	科目名	定員
	寺崎 秀一郎	文化人類学ゼミ（文化ツーリズム論） 副題： プログラム：文化人類学	10～15 名

授業内容

【3 年生】

3 年生時の到達目標は大きく分けて 2 つあります。まず、第一に文化/文化遺産をめぐる今日の状況、および、「持続可能な開発」としての観光開発の過去と現在を理解するための基本的文献を読破することです。そして、第二に各自のフィールドを選定し、来るべきゼミ論に向けて予備調査を実施することです。その上で、学年末にゼミ論のコアとなるべき、レポート（8000 字程度）を作成・提出してもらいます。

また、フィールド選定時の留意事項ですが、みなさんがやりたい、やってみたい、ということとゼミ論提出までの限られた時間の中でできることが一致するとは限りません。みなさんの「学ぼう」という決意を実現するためにも春学期の過ごし方や夏期休業中の予備調査がとても重要な意味をもつことを理解しておいてください。

【4 年生】

3 年生時に作成したレポートをもとに問題意識を深化させ、ゼミ論の完成を目指します。特に春学期については、就職活動等との関係で多忙となることも予想されますので、執筆計画は余裕をもって作成しましょう。

シラバス

※ゼミ進級決定時に基本文献リストを配布しますので、3 年進級時までに目を通しておいてください。

【3 年生】

4～6 月：各自の関心領域について、報告・討議をおこないます。その過程で必要な文献の収集方法、フィールドワーク等についてアドバイスも併せておこないます。

7 月：各自のフィールドと仮テーマを決定・報告。

8～9 月：フィールドワーク。

9 月：ゼミ合宿（合宿費用は実費徴収となります。期間や場所にもよりますが、1～2 万円と想定しています）

10～1 月：フィールドワークの成果、ならびにレポート進捗状況の報告。

2 月：レポートの提出。

※なお、フィールドワークについては、対象地域や年中行事等の関係がありますから、8～9 月に限定するものではありません。4 年生時も同様です。

【4 年生】

4 月：3 年生時レポートの再検討とゼミ論テーマの確定。

5～7 月：ゼミ論の執筆・フィールドワーク・進捗状況報告、および討議。

8～9 月：ゼミ論の執筆・フィールドワーク。

9 月：ゼミ合宿（合宿費用は実費徴収となります。期間や場所にもよりますが、1～2 万円と想定しています）

10～12月：ゼミ論執筆。この段階では個別指導を強化する予定です。

1月：ゼミ論最終報告会。3年生にも参加してもらいます。

教科書

【3年生】【4年生】特に指定しません。

参考文献

【3年生】【4年生】適宜、教場にて指示します。

評価方法

【3年生】【4年生】出席状況、研究報告の内容、討議への参加などをもとに総合的に判断します。

授業実施曜日・時限

【3年生】火曜日 3限

【4年生】火曜日 4限

履修モデル

1～2年生時に文化人類学関連の科目を履修していることが望ましく、また、すでに関心のある地域が決まっている人は、当該地域に関する歴史的背景を理解するためにも、史学系の関連ブリッジ科目等を履修しておくとい良いでしょう。なお、3年生は3限、4年生は4限に登録されますが、合同で授業をおこなうことがありますので、3限・4限を空けておくようにしてください。

ゼミ紹介

1987年に提唱された「持続可能な開発」の一形態として観光開発が注目され、近年、観光産業は世界経済の中で、重要な位置を占めるに至っています（2008年にはその経済規模は世界の国内総生産の（GDP）の約9.9%＝5兆8,900億ドルに達しています）。増大する観光客のニーズは多様化していますが、その中で、各地の文化/文化遺産も「資源」としてとらえられる傾向にあります。ゼミ担当である私自身もメキシコ、チアパスのラカンドン族の集落で、ジーンズにTシャツ姿でマウンテンバイクに乗っていた若者が、観光客が到着した途端、彼らの民族衣装である貫頭衣に着替える姿を目の当たりにしたり、ホンジュラスにおいては先スペイン期遺跡の保存修復整備事業に青年海外協力隊の隊員として参加し、その経験をきっかけに中米における主要観光資源である先スペイン期遺跡と現代社会の関係に注目するようになりました。本ゼミではツーリズムということを入り口に、文化/文化遺産を継承する人びと＝ホスト側とそこを訪れる観光客＝ゲスト側の双方において、文化はどのように語られ、あるいは再構築されていくのか、あるいは、その未来はどうなるのか、といった問題を起点に人類社会の多様性や多文化共生型社会について、ゼミ生みなさんと共に考えていきたいと思っています。研究対象地域は、日本を含む世界中です。

選考方法

1. ゼミ志望理由書(必須)
2. 2年春学期までの成績を参考にする
3. 面接を行う。

4	担当教員	科目名	定員
	國弘 暁子	文化人類学ゼミ（宗教への人類学的アプローチ） 副題：宗教の人類学 プログラム：文化人類学	10～15 名

授業内容

宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、吊いといった、人間の多様な営為に焦点をあてます。テキストの事例は日本以外のものを多く含むため、外国の人々による宗教実践のフィールドワークも行いながら理解を深めていきます。宗教の人類学という領域が扱う問題群の射程をつかみ、さらに、そこから各自の関心を導き出して、最終的には、生きること全般について独自の考察を行うことを目的としています。

シラバス

【3 年生】

- ・ 春学期（4月～7月）は主に、宗教人類学の入門書と関連文献の輪読を行い、宗教人類学の射程をつかむことを主たる目標とします。それと同時に、各自の研究テーマを絞り込んでいきます。ゼミ授業の時間以外の機会において合同でフィールドワークを実施し、その手法についても学習します。
- ・ 夏季休暇中（9月）には、これまで3年生・4年生合同で群馬県の水上温泉や、大阪の国立民族学博物館を訪れ、研究発表を行う夏合宿を実施してきました。今年度は、ゼミ担当教員が長年調査地としてきたインド北西部グジャラート州を舞台とする研修旅行を実施する予定です。合宿にかかる費用は時期と目的地によって異なります。
- ・ 秋学期（10月～1月）からは、各自の研究テーマについての発表とディスカッションを行います。そのため、夏季休暇中には各自ゼミ論のテーマを固めて、フィールドワークをある程度進めていることが求められます。4年次のゼミ論指導準備のために、学期末には 10,000 字レポートを提出してもらいます。

【4 年生】

- ・ 春学期（4月～7月）は、ゼミ論の執筆作業に対する指導がメインとなります。ゼミ論執筆に向けての進捗状況の報告会を、夏合宿などの機会を利用して随時開催します。
- ・ 秋学期（10月～1月）は、ゼミ論の執筆作業に対する指導がメインとなります。

教科書

【3 年生】

関一敏・大塚和夫（編）『宗教人類学入門』弘文堂、2004 年。

【4 年生】

適宜、指示します。

参考文献

適宜、指示します。

評価方法

出席状況、発表内容、ディスカッションへの参加、ゼミ論執筆に向けた取り組みなどをもとに、総合的に判断します。

関連 URL なし

授業実施曜日・時限（予定）

3 年生は月曜 3 限に、4 年生は月曜 4 限に登録されますが、合同で月曜 3 限に授業を行うこともありますので、4 年生は月曜 3 時限も出席可能な体制を取ってください。

履修モデル

文化人類学関連の科目（講義・演習）を複数履修済みであることが望ましい。

ゼミ紹介

「無宗教」という言葉の使い方について考えてみましょう。特定の儀式や教義に基づいた組織に関与しないことを理由に「無宗教です」、と答えるひとは多いと思います。その一方で、正月には神社で祈禱を行い、夏の神事に参加し、お盆の時期には先祖供養をする。これらの行為は、国外の人からすれば立派な宗教的な行為であり、言動が矛盾していると彼らから思われてもおかしくありません。このような宗教に関する認識のズレが生じるのは、日本語の宗教という言葉の歴史にあるという指摘があります。日本語の宗教とは、西洋社会のキリスト教のような教義体系を意味する言葉として、明治初期に、西洋人との交渉の過程でつくられたものです。よって、地縁にもとづいた神事への参加や先祖の供養といった行為は、日本語では宗教という言葉の括りに入らないというわけです。

このような言葉の成立背景を踏まえたうえで、日本語の宗教という括りを一旦取り払ってみましょう。そして、祈る、弔う、祝うといった人間の行為に着目して日本国外を見渡したとき、これまでは宗教の問題だから私たちには関係ないと片付けていた問題が、実は私たちにも相通ずる問題であったことに気づくかもしれません。私たちとは異なる環境で暮らす人々の営みについて学ぶことは、私たち自身のあり方を問い直す作業にもなります。

このゼミでは、様々な地域で生起する問題群に対して関心を示し、柔軟な思考でもって解釈しようとする態度、そして、慣れ親しんだ考え方から距離を置いて、別の視点から現状を捉え直してみようとする姿勢をもつ人物の参加を歓迎します。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2 年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		

5	担当教員	科目名	定員
	松前 もゆる	文化人類学ゼミ（移動・移住の人類学） 副題：移民、難民など移動する人々の研究 プログラム：文化人類学	10～15 名

授業内容

人々の移動・移住は今日の世界における顕著な社会現象のひとつであると同時に、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は今に始まったことではなく、また、国境を越える移動のみならず国内での人の移動も考えられます。

このゼミは広く人の移動・移住をテーマとして、文献購読とフィールド調査を行います。主な目的は下記の 2 つです。まず、①移動・移住という現象に関して文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献から学び、基本的な知識を得ること、さらに、②関連するフィールド調査を通じ、移動・移住の実証的な研究の可能性を探り、最終的には各自の関心を明確にして、人々の「移動・移住」に関する独自の調査・研究を実施できるようになることです。

シラバス

【3 年生】

- ・春学期：人の移動・移住に関する文化人類学および隣接分野の基本的な文献を購読し、報告とディスカッションを行います。また、週末等を利用して実施する予定のフィールド調査等に参加し、その過程で各自の調査・研究関心をしぼり、学期の終盤には、各自調査・研究計画を立案して報告します。
- ・夏季休暇中：休暇中からは、上記計画に従い、各自、調査・研究に着手します。なお、3・4 年生合同でのゼミ合宿、ゼミでのフィールドワークをこの時期におこなう可能性があります。
※ゼミ単位での合宿やフィールドワークについては、参加者と相談のうえで日程や目的地等を決めたいと思います。必要な費用は、実施時期や日程、目的地によって異なります。
- ・秋学期：各自の調査・研究に関する発表とディスカッションを中心に進めます。学年末には、ゼミ論執筆準備に向けたレポート（8000 字程度）を提出してもらいます。

【4 年生】

- ・春学期：各自がゼミ論の執筆を進めるとともに、それについて議論・指導を実施します。
- ・夏季休暇中：3・4 年生合同でのゼミ合宿、ゼミでのフィールド調査をこの時期におこなう可能性があります。合宿では、ゼミ論文の進捗状況を互いに発表し、議論を行います。
- ・秋学期：各自ゼミ論の執筆を進め、議論や指導を受けつつ再検討し、論文を完成させます。

教科書

【3 年生】【4 年生】

特に指定しません。文献・資料等については適宜指示します。

参考文献

【3 年生】【4 年生】

ゼミの中で適宜指示します。

評価方法

出席状況や報告・発表内容、ディスカッションへの参加、ゼミ論文への取り組み状況などをもとに総合的に判断します。

関連 URL

なし

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】木曜日 3 限

【4 年生】木曜日 4 限（ただし、3・4 年生合同で木曜 3 限にゼミを実施することがありますので、4 年生は木曜 3 限も出席可能な体制をとってください。）

履修モデル

1～2 年時に文化人類学関連の科目を履修していることが望ましい。

ゼミ紹介

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、同時に、日本にいと「我がこと」としてとらえにくいと感じている人も少なくないかもしれません。しかし、周囲を見渡せば、さまざまな場で外国人の姿を見かけるようになりまし、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちのくらす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。

現代世界において人の移動・移住を考えることは、移動する人々と受け入れる人々との関係、つまりは異なる文化的背景を持つ人々がいかに共にくらし、地域社会を形成していくかを問うことにもつながります。さらに近年、外国出身の女性たちが先進諸国のケア労働を担い始めたことによる「国際移民の女性化」「ケアの国際分業」といった現象も指摘されていて、ジェンダーや労働、家族などを問い直すことにもつながると考えられます。移動・移住を切り口に、国際社会の課題から身近なことから、文献調査とフィールド調査から得られる知見を共有しながら、考察を深めていきましょう。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2 年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		

6	担当教員	科目名	定員
	坂上 桂子	異文化接触ゼミ(都市と美術) 副題：都市と美術 プログラム：異文化接触	10～15 名

授業内容

キーワード：

アート 社会 都市 異文化 建築 広告 デザイン パブリックアート ミュージアム

私たちの暮らす都市には、広告やデザイン、ファッション、パブリックアート、建築空間が豊富にあって、“視覚文化”に溢れています。また美術館や画廊など“アートの展示場”では、つねに展覧会も開催され、視覚（ヴィジュアル）的要素は、現代社会において大きな意味をもつようになりました。そこには、社会のさまざまな問題が反映され、古今東西の多様な文化が共存し、混在するのを見出せます。東京オリンピックを控えた東京では、都市の生活空間にかかわる問題は、とりわけ重要な課題となっています。授業ではこうした身近な都市環境を、とりわけ美術という視点から捉え、仲間とともに実見・体験し、分析・考察を行っていきます。アートと社会にかかわる問題を、都市、異文化、生活を切り口にとらえることが目的です。授業では私たちの豊かな生活や社会を生み出し、発展させる要因として、アートやデザインはどのような力をもちえるのかその可能性を探ります。

- 1、自分たちの置かれたアートと社会の環境を明らかにするために、まずは自分たちが生活をしている東京について考えます。2019 年度は丸の内を調査対象とし、建築、美術館、パブリックアート、町並みなどを調査し、その結果をまとめていく予定です。
- 2、春合宿では韓国ソウルを訪れ、ソウルの町並みを同様の視点から考察し、比較検討します。
- 3、秋合宿では日本の地方都市のどこかを訪れ、東京やソウルと比較検討します。

見学授業風景



天王洲の「建築倉庫」にて



三鷹の「天命反転住宅」(荒川修作)にて
法学部・創造理工学部建築学科の学生と

シラバス

春学期：3 年は韓国ソウルでの交流授業の準備、4 年はゼミ論準備を中心とします

- 【3 年】4-5 月 交流授業のための準備・実習テーマの決定
- 5-6 月 交流授業（成均館大学・漢陽大学・慶熙大学）
- 6-7 月 交流授業のまとめ
- 7 月 アートマッププロジェクト調査計画
- 【4 年】4-5 月 交流準備の助言・手伝い
- 5-6 月 ゼミ論テーマの決定・概要の作成
- 6-7 月 ゼミ論発表
- 7 月 アートマッププロジェクト調査計画

秋学期：10 月末に 3、4 年合同でゼミ合宿をします

- 【3 年】9-10 月 合宿のための準備、実際、まとめ
- 10-11 月 アートマッププロジェクトの実施
- 11-12 月 アートマッププロジェクトの報告
- 【4 年】9-10 月 合宿のための準備、実施、まとめ
- 10-12 月 ゼミ論発表
- 12-2 月 アートマッププロジェクトなど

評価方法

授業への参加の度合い、プレゼンテーション、レポート、ゼミ論など、総合的評価によります。なおゼミ合宿は授業の基本となりますので、参加することが評価のための条件となります。

履修モデル

【ブリッジ科目】西洋近代美術／芸術論争の歴史／芸術と社会／異文化の伝播と受容／異文化接触と日本文化／現代アート入門

【演習】創造の交流点／世界のなかの日本のイメージ／世界の工芸にみるデザイン／東アジアの文化遺産／東アジアの美術と思想

アートに関する講義科目を、時代・地域に関わらず幅広く履修することが望ましいです。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】は火曜日の 5 時限目、【4 年生】は火曜日の 6 時限目に登録されますが、見学会などにおいて両時間を使う合同の授業が多くあります。受講生は、5、6 時限両方をあけておいてください。

ゼミ紹介 研究室ホームページ参照 <https://sakagamiseminar.com>

ゼミの中心のひとつが、毎年ソウルにて実施する合宿授業です。1 週間、漢陽大学の寮に滞在し、韓国の 3 つの大学、漢陽大学（政策学部・人文学部）、慶熙大学（美術学部）、成均館大学（建築学部）の教員・学生たちとともに学びます。共同研究発表、見学会を通し、韓国の学生や先生方と交流をします。以下、2018 年春ソウル合宿の様子を紹介します。



成均館大学での授業
両校の学生たちが発表内容をまとめている



成均館大学との合同授業
班ごとに場所を決めて町歩きを実施



成均館大学の学生たちと



慶熙大学のギャラリーでの授業



民画博物館にて
韓国の伝統的民画を体験



デジタルメディアシティにて
MBC放送局の見学



漢陽大学にて

2019 年度は、ソウルと東京とで毎年交互に開催している早稲田大学と成均館大学の大学院生を中心とした研究会「都市と美術フォーラム」にも大学院生とともに参加予定です。ソウルでは大学での合同授業のほかにも、建築、パブリックアート、町並み、現代アート、伝統アート、広告など、グループごとにテーマを決めソウルの町や美術館を訪れます。

その他、学芸員の案内による美術館の見学会、および海外からいらっしゃる先生方の講演会に参加する機会もときどきあります。昨年度は、ブリュッセル自由大学やオランダ王立美術館の先生方の講演を聞きました。

卒業後の進路

ゼミ生の就職先としては、広告会社、テレビ局、出版社、銀行、保険、航空会社、公務員など多様です。進学先としてはこれまで、文学研究科美術史コースを中心に、ドイツ、イギリス、フランス、カナダなど海外の大学院（大学）に進学しています。また本ゼミでは第 1 回の卒業生から現役生までゼミ出身者同士交流がさかんで、縦のつながりが強いのも特徴です。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2 年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		

7	担当教員	科目名	定員
	宮城 徳也	異文化接触ゼミ（文化変容論） 副題：文化変容とその展開 プログラム：異文化接触	10～15 名

授業内容

【3 年生】このゼミは、文化が伝播し、それを別の文化が受容することによって新しい文化が生まれていく過程を考察する「文化変容論」のゼミとして展開してきました。その原因を分析し、整理することによって、文化が変容し、新しく生成していく過程を過去の偉大な遺産（思想、芸術、言語）から学んできました。「文化変容」をキーワードに、異文化接触に焦点を当てて、ゼミを展開しています。今後も従来通り、文化変容を考察するという基本的な姿勢を堅持しつつ、同時に、少数でも文学テキストに関心の高いゼミ生も受け入れ、様々な面から、異文化接触と文化変容を考えて行きます。

春学期にはそれぞれが関心のあるテーマを探し出すために、様々な題材を持ち寄り、それにアプローチするための手法（文献、言語、調査）を探っていきます。

秋学期は、春学期の成果を踏まえ、各人の発表を中心に行います。夏期休暇中に合宿を行ない、ゼミ論の方向性を模索します。

【4 年生】3 年次の成果を踏まえ、ゼミ論を執筆します。春学期は、研究発表を中心に行ない、秋学期は、ゼミ論完成に向けて、個別指導に重心を置きます。

シラバス

【3 年生】4－5 月は基礎知識の共有と興味の発掘を主眼とする。6－7 月には、各自の研究テーマを選定し、研究の具体的手法を探る。夏期休暇中には、合宿によって情報交換をし、個人の調査・研究によってテーマを深める。10－12 月は、夏期休暇の成果をもとに、順番に発表・討議を行なう。1 月には、3 年次の研究成果をまとめ、ゼミ論を視野に入れた研究発表を行ない、レポートを提出する。

【4 年生】4－6 月は計画的にゼミ論作成を進めるに際し、進捗状況を月 1 回程度のペースで報告し、それについて討議する。7 月には、ゼミ論の中間発表会を開く。10－12 月は、ゼミおよび個別指導を受けつつゼミ論を完成させる。1 月には、ゼミ論最終発表会を行なう。

教科書

【3 年生】特に定めない。

【4 年生】特に定めない。

参考文献

【3 年生】ゼミ生の関心が多様なので、授業で紹介していく。

【4 年生】ゼミ生の関心が多様なので、授業で紹介していく。

評価方法

【3年生】[1]ゼミ参加の積極性[2]授業・合宿などへの参加[3]ゼミでの発表[4]レポート

【4年生】[1]ゼミ参加の積極性[2]授業・合宿などへの参加[3]ゼミでの発表[4]ゼミ論への取り組み

関連 URL

「宮城徳也研究室」<http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm>

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】2 学年合同で木曜の 5 時限に行ないます。延長する場合もありますので、可能な限り、6 限も空けておいてください。

履修モデル 個別に相談に応じて、一緒に考えて行く予定です。

ゼミ紹介

このゼミは、異文化接触プログラムのゼミとして展開されます。

異文化が他の文化との接触によって新しい文化を生み出していくことに興味を持つ学生を対象に、文化の変容と創成と一緒に考えていきます。個々の文化を深く学び、理解するためには多くのハードルをクリアしなければなりません。本ゼミはその出発点に立つことを企図して、手に届く範囲の日本語文献、英語ウェブページを批判的視点を持って精読しながら、何かを理解するために次に何をすべきかを自分の頭で考えていく姿勢をともに築いていきたいと思っています。

担当教員の関心はイタリアを中心とするヨーロッパがいかにギリシャ・ローマ文化の影響を受けながら、それとは違うものを作り上げていき、それが日本を初めとする世界各地に影響を与えたことにありますが、別の視点から、文化の変容に関心を持っている人も歓迎したいと思います。それぞれの興味を活かしながら、自分のテーマを掘り下げて、それをわかりやすく伝え合えるような、そのようなゼミにしていきたいと思っています。

過去のゼミ論のテーマは多様で、ヨーロッパと日本の言語、美術、建築、思想、文学、歴史、食文化、庭園、都市、多文化共生、宗教が取り上げられました。担当者は多くの場合、適切な指導、助言を行なうと言うよりは、皆さんと一緒に勉強していく姿勢ですが、その中で、韓国や東南アジアを研究してゼミ論をまとめた人もいました。どのような場合でも、核になるのは「異文化の伝播、受容、変容」で、その中から新しい文化が形成されていくことに、関心があることを前提としています。

この趣旨は、文学テキストからアプローチする場合でも変わりません。ギリシア神話やキリスト教の聖人伝説に見られる「物語」が、文芸作品のみならず、歴史、哲学、絵画、彫刻、音楽、演劇、映像など多くの思想、芸術や、日常生活に深く影響していったかもヒントに、私たちの文化や芸術、文学創造の個々の問題を様々な角度から取り上げて、皆さんと一緒に勉強していきたいと思っています。文化の伝播と受容、その変容、新しい文化の創成、それによって生まれた多くのものに関心のある皆さんは是非、一緒に勉強して行きましょう。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○



8	担当教員	科目名	定員
	高橋 利枝	異文化接触ゼミ（メディア・コミュニケーション論） 副題：グローバル化とメディア プログラム：異文化接触	15～20 名

授業内容

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化

とデジタル化によって、日常生活はチャンスとリスクに満ちています。このゼミでは、このような時代を生きるゼミ生のために、

①グローバル化、デジタル化された現代社会におけるチャンスとリスクについて理解を深めるとともに、②コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

現代社会においてメディアは、ビジネス、政治、経済、教育、医療、スポーツなど至る所に入り込んでいます。携帯電話やインターネットは私たちの日常生活において様々な人や文化を結びつけ、グローバル化を推し進めています。このゼミでは共同プロジ

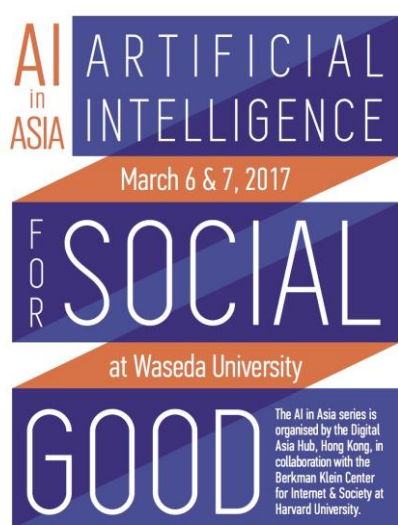
ェクト（YMG: Youth, Media and Globalisation）を通じて、現代のグローバル社会における情報通信技術の発展によって得られるチャンスとリスクについて明らかにしていきます。

2018 年度は、2017 年度に引き続き、「AI(人工知能)・ロボット」や「若者のメディア利用」に関するプロジェクトを行う予定です。『マツコロイド』などアンドロイド研究で有名な大阪大学石黒浩研究

室とのロボットに関する共同調査や、イタリアやオーストラリアとの国際比較調査など、国内外の研究者と多様なプロジェクトを行う予定です。また、今年3月に行った Digital Asia Hub/ハーバード大学との AI（人工知能）に関する国際シンポジウムのようなワークショップなども、ゼミ生みんなで行っていききたいと考えています。

授業ではまず、グローバル化された現代社会を理解するためにグローバル化や異文化コミュニケーションに関する文献、またデジタル化を理解するためにメディア・コミュニケーションに関する主要な文献の講読やリサーチを行います。そしてゼミ生各々の関心分野によってグループにわかれ、プレゼンテーションを行います。この時、ゼミ生全員は積極的にディスカッショ

ンに参加することが期待されます。グループワークによって基礎的な知識を習得し共有すると同時に、



For more information about the day's agenda, sessions, speakers and more, visit www.digitallasia.org. Follow #AlInAsia on Twitter.



早稲田大学
WASEDA UNIVERSITY

スマートフォンやソーシャルメディアの利用に関する街頭インタビューやビデオ製作、メディア関係者とのディスカッション、企業とのコラボレーションや他大学との合同ゼミなど様々な実践的な活動も行なっていきたいと考えています。このように本ゼミでは理論的かつ実践的にグローバル社会におけるメディアの社会・文化的役割について理解し、グループワークやプレゼンテーションを通じて各々のコミュニケーション能力に磨きをかけることを目標としています。



(写真は、NTT グループとの共同プロジェクト「ICT の利活用による地域の活性化」。J リーグ「大宮アルディージャ」Nack5 スタジアム大宮でのフィールドワークの様子です)

シラバス

【3 年生】

3 年生はグループワークによる共同プロジェクトを行います。前期は文献講読やリサーチ、ビデオ製作などによって基礎的な知識の習得を目標とします。後期はフィールドワークなどの結果をゼミ生全員で一つの報告書にまとめていきます。共同プロジェクトに参加して知識や方法論を共有しながら、自分の関心にあったテーマを見つけ、来年度のゼミ論に備えましょう。

【4年生】

4年生は共同プロジェクトに加え、ゼミ論のための個人プロジェクトを立ち上げ、前期の最後には、序章、理論枠組み、夏休み中のフィールドワークの計画に関する研究プロポーザルを提出します。後期は、夏休み中に行ったフィールドワークの分析および結果について、ゼミ論発表会を行います。個人プロジェクトの発表によってプレゼンテーション技術を磨くと共に、ゼミ生から得られたフィードバックをもとに論文の書き直しや推敲を行い、よりよいゼミ論を完成させていきましょう。

教科書

【3年生】【4年生】

ゼミ生の関心に合わせて授業中に適宜指定します。

参考文献

【3年生】【4年生】

ゼミ生の関心に合わせて授業中に適宜指定します。

評価方法

【3年生】

プレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの貢献度、レポートの総合評価

【4年生】

プレゼンテーション、ディスカッション、論文の総合評価

関連 URL

高橋利枝オフィシャルウェブサイト <http://blogs.law.harvard.edu/toshietakahashi.jp/>

授業実施曜日・時限（予定）

2 学年合同で金曜日 5 時限に行います。但しグループワークやディスカッション、プレゼンテーション等で延長することが多々ありますので6 時限も出席可能な体制を取ってください。

履修モデル

それぞれのテーマや関心にあった履修モデルを考えていきましょう。



ゼミ紹介

Society5.0 をクリエイティブに生きるために

私たちが今生きている社会は、第4次産業革命、Society5.0 などと呼ばれています。現代社会の中で夢を叶えるには、まず社会を知ることが大切でしょう。中でもスマートフォン、ソーシャルメディア、AIなどは私たちの日常生活の中に深く浸透しています。社会やその中で繰り広げられる人間関係もメディア抜きで語ることはとても難しいのです。グローバル社会、デジタル社会に適応しつつも、情報の洪水に押しつぶされることなく生きていくためには、小さな目標を1つ1つクリアしながら、大きな夢に向かって、自己をクリエイティブに創造していくことが大切だと思います。AI時代でのチャンスを最大限に享受し、リスクを最小限にしながら、現代社会をより強く生き抜く為の「力」―「デジタルウィズダム」を身につけていきましょう。



(写真は2017年8月6日オープンキャンパス模擬講義『AI時代におけるデジタルウィズダム』の様子です)

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		

9	担当教員	科目名	定員
	小林 信之	感性文化ゼミ（現代の文化哲学） 副題：感覚と思考のレッスン プログラム：感性文化	5～10 名

授業内容 ゼミの基本コンセプト

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体内の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり共生することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。



「美しい花」があるのであって、「花の美しさ」というようなものはない（小林秀雄）とは、どういうことでしょうか。いっしょに考えてみませんか。
（左図は田中栄子作「沈丁花」）

具体的な主題としては、以下のようなテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわっています。

- ・【自己と他者】 「わたし」とは何かという問いかけは、哲学的にものを考える出発点です。しかし「わたし」だけを孤立化させて考えつづけても、けっきょく蛸壺に落ちこむだけでしょう。「わたし」とはつねに他者関係ぬきに考えることのできないような何かなのです。
- ・【時間と物語】 わたしたちは物語る存在、言語的存在です。過去を記憶し、未来に想像力を働かせるとは、言語的に物語を構築することにほかなりません。この意味でわたしたちは、時間的な存在でもあるのです。
- ・【空間と身体】 わたしたちは、生身の身体的存在であることで、豊かな空間的意味を獲得します。いま現在、わたしのまえに開かれているありありとした知覚の風景をそのままに記述すること、そのような現象学的方法によって「見る」という原初的営為の意味が露わとなるのです。
- ・【エロスとタナトス】 この世界の現実に触れ、他者と共鳴しあい、わが身を共振させること、それが感情です。なかでも愛（エロス）は、わたしたちにとって、さまざまな感情の中核をなしていると考えられます。他方、わたしたちが生身の存在であるということは、つまりわたしたちが死すべき存在であり、「終わり」ある有限な存在であるということです。わたしたちが自己の存在を問い、哲学という営みが始まるのも、まさに死を死として自覚するときでしょう。このように、わたしたちの存在の根底にあ

る欲望は、「エロスとタナトス（愛と死）」の名で呼ばれてきましたが、哲学者によって思索され、詩人によって直観的に歌われてきたこのテーマを、「愛と死の解釈学」として研究していきます。

・【美と創造性】 カントという哲学者は、日常的なさまざまな関心を遮断するとき、美しいものを純粹に観照する経験が開かれると説きました。また現代の哲学者オスカー・ベッカーは、「美のはかなさと芸術家の冒険性」について語っています。とらえどころなく移ろう美的現象と、新しい価値を創造する芸術家、この両者はわたしたちの生を豊饒で奥深いものにしてくれます。

シラバス

【3年生】研究を進めるうえでの方法論と参考文献、研究可能な領域、テーマの具体例を順次解説し、大まかなフィールドとテーマの確定をめざします。正確にテキストを読解する能力、数多くの作品に触れて感じ取る力を身につけると同時に、自分の言葉で考えを明確化し、ディスカッションに積極的に加わることが求められます。春学期に、研究の進め方やテーマの選び方などに関して、各人の要望をうかがいながら説明していきます。そののち、それぞれの研究テーマと研究計画を定めます。秋学期には各人の研究テーマを具体化します。研究発表やレポート等が課されます。

【4年生】3年生後半の成果を踏まえ、各人のテーマをさらに深化させていきます。最終的な研究の完成に向けて、研究発表、ゼミ論の執筆が課されます。

このゼミにおいて可能なテーマの具体例としては、「感覚の哲学」「日常性の美学」「身体現象学」「エロティシズムと死への問い」「感情論」「サウンドスケープ（音環境）論」「関係性の美学」「ヴィジュアル文化研究」「現代の民藝」「日本の美学」等です。

なお、教科書や参考文献は、授業中に適宜指示します。

評価方法

研究発表、論文・レポート等。出席も考慮します。

関連URL

<http://www.f.waseda.jp/kobayashi/index.html>

このサイト（小林信之研究室・ゼミ演習用資料室）に、これまでのゼミ論がすべて収められています。パスワード設定してあるので、読みたい人は小林宛にメールで連絡ください。

ゼミ紹介

ものごとを論理的につきつめて考えることは大事なことです。しかし同時に、感じることの豊かさを失ってはなりません。いまここで生きていることの意味は、知性だけでも、感覚だけでも、汲みつくすことはできないのです。本を読み、考え、語りあうこと、美しいもの、不気味なもの、崇高なものにふれること、他者と向きあい、手さぐりで理解しようと努めること、こうしたことのすべてが皆さんの生に鮮やかな彩りをあたえます。このゼミはそうした経験へと皆さんを導く場なのです。

目標は皆さんが自分の足で歩きはじめることです。みずから考え、判断し、決断できるようになることが大事です。そのために、ゼミ担当教員も必要な支援を惜しみません。

ゼミでは、授業時間以外にも、少人数の読書会、美術館やギャラリーへの訪問、遠隔地へのゼミ旅行等が企画されています。またさまざまなゲストスピーカーの方に来ていただいて、お話をうかがう機会

も設けます。このゼミで存分に学ぶことの喜びを味わってください。

なお、卒業後のゼミ生は、大学院進学、教職・公務員、出版社、広告会社、IT関連企業、マスコミ、金融関連等々、多種多様な分野に進んでいます。主な進路としては、大学院（早稲田大学哲学コース、名古屋大学、明治大学ほか）、東京都庁、博報堂、イマジカ、アマゾン、ソフトバンク、三井住友銀行、りそな銀行、野村証券、ルイ・ヴィトン、舞踊家、落語家、俳優など。

感性文化ゼミ（小林ゼミ）の歩み

2009年に複合文化論系にこのゼミが開設されて以来、百名以上のゼミ生が巣立って行きました。



2009年春学期

チューリッヒ工科大学のユルゲン・クルシェ先生を迎えて。テーマは視覚文化研究について。



2010年秋学期

成城大学・津上英輔先生の研究室との合同ゼミ



2012年夏休み
越後妻有・大地の芸術祭
ゼミ合宿@新潟松代セミナーハウス



2015年秋学期
青空ゼミ@鴨川セミナーハウス

授業実施曜日・時限

金曜日の5時限（予定）。2学年合同で5時限に行います。但し論文指導、読書会等で延長することがありますので、6時限も出席可能な体制を取ってください。

履修モデル 推奨科目

【講義（ブリッジ科目）】

文化の哲学、感性の哲学、現代美学の射程、生活環境美学、芸術論、美の諸相、死の諸相、愛の諸相、近代日本の思想空間、美学 1、美学 2

【複合文化論系演習】

感性哲学、感性文化基礎論、視覚文化論、聴覚文化論、生活環境感性論、現代哲学の諸相、アートコミュニケーション

選考方法

ゼミ志望理由書（必須）

2年春学期までの成績を参考にする場合があります。面接も行う予定です。

授業内容

【3 年生】

遠い過去から現代にいたるまで、日本の諸文化を生成した人々、またそれらを積極的に享受した人々はどうのような感性をはたらかせ、またどのような美に対する意識をもっていたのだろうか。このゼミでは、感性と美意識とを手がかりにして日本文化の特質について考える。特に次の(1)～(3)の点を重視しつつ、4年次のゼミ論文執筆に備えて各人の研究テーマを探っていく。

(1) 近代よりも前の文化におけるものの見方、感じ方、考え方をおさえることに努める。

近代・現代の文化を積極的にとりあげる場合であっても、なるべく前の時代からの継承、および断絶ということに対して、意識的であってほしい。また、あわせて「日本独自の……」という見方を鵜呑みにせず、丁寧に検討してほしい。たとえば、日本の古典文化については、東アジア、漢字圏、あるいは東ユーラシアの中の日本文化というとらえ方がある。『古今集』『源氏物語』などの文学は、調べれば調べるほど「国風文化」などとは呼び難いことがわかってくる。遣唐使を廃止した途端にドメスティックになるわけではなかったのである。一般に「日本的」、あるいは「和風」などといわれる諸事象も、本当に「日本独自のもの」なのだろうか。そうした疑問をいだきながら、積極的に前近代(プレ・モダン)の原典にもふれてみよう。

(2) 近代以降、西欧の文化(特に言葉・観念・思想など)との接触がもたらしたものを意識する。

近代の日本は、西欧の諸文化からさまざまな影響を受けている。特に看過しがたいのは、今日の私たちが日本語で思考したり論じたりする際に頻用する言葉の多くが、西欧語から新たに翻訳されているという点である。ちなみに、この文中で用いる「文化」「美」「社会」などの言葉もすべてそれにあてはまってしまう。

近代以降の諸文化をとりあげる際、私たちには西欧流のものの見方、感じ方、考え方にどっぷり浸かっている面があるということにも自覚的でありたい。

(3) 日本文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかということをとらえる。

日本文化は、「クールジャパン」などという言葉が流通するよりもずっと前から、世界の中で注目されることがたびたびあった。日本文化に精通する海外の研究者、翻訳者たち、それに世界のさまざまな国と地域から日本へ留学している学生たちなどの発言に耳をかたむけ、さまざまな角度から日本文化をとらえるための機会を設けるようにしたい。

【4 年生】

3・4年生合同のゼミなので、授業内容は上記の3年生と共通する。加えて、3年次のゼミにおける発表内容を適宜活かしながら、各自の研究テーマに即して充実したゼミ論文の完成をめざす。

シラバス

【3 年生】

4・5月: さまざまな研究の着眼点、方法、参考文献の紹介・解説などを中心に講義する。

6・7月: 仮の研究テーマを決めて、各人の研究発表を行う。特に前近代の諸文化との関係を重視した

テーマが中心となる。また、ゼミ論文についておおまかに計画を考え始める。

9月中旬：ゼミ合宿を実施する（ゼミ論文でとりあげる可能性のあるテーマで発表）。

9～12月：日本の感性文化と美意識に関わる複数の基礎的文献をとりあげる。西欧文化との接触、及び海外における日本文化の受容を重視して文献を選ぶ予定。

1月：それまでの研究成果をレポートにまとめる。また、研究計画を具体化する。

【4年生】

4・5月：ゼミ論文の構成（目次）案をかためてゆく。

6・7月：ゼミ論文の一部分について、口頭発表をするとともに、草稿を執筆する。

9月初旬または中旬：ゼミ合宿を実施する（ゼミ論文の一部分に関する発表）。

9～12月：ゼミ論文の完成に向けた添削指導など。

1月：ゼミ論文の研究成果発表。

教科書

【3年生】【4年生】 特に定めない。必要に応じて指示もしくは配付する。

参考文献

【3年生】【4年生】 それぞれの関心、研究テーマをふまえながら、適宜指示もしくは配付する。

評価方法

【3年生】【4年生】 発表内容と参加態度、レポート・ゼミ論文への取り組み方を総合的に評価。

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】 火曜日・3時限 〈2019年度より曜日変更〉

なお、各学期とも授業を延長するケースが多くなる。3時限では、基本的に3年生の発表を優先的に組む。4年生はなるべく火曜日の4時限を空けておいてほしい。また、3年生も（必須ではないが）火曜日の4時限に履修希望の科目がないのであれば、ぜひ延長した時間も参加してほしい。

履修モデル

感性文化論と美学に関する基礎がおさえられていることが望ましいので、ブリッジ科目の「感性の哲学」「美学1」「美学2」、ならびに演習科目の「複合文化論系演習（感性文化基礎論）」の履修を奨める（ゼミに進んでからの履修であってもまったく支障はない）。

また、このゼミの内容と密接に関わる演習科目としては、ゼミ担当教員が受けもつ「複合文化論系演習（日本の美意識）」がある。

なお、各人の関心の領域にあわせた履修モデルについては、必要に応じて個別に相談に応じる。

ゼミ紹介

日本文化における感性と美意識というテーマは、世界中の少なからぬ人々にとっての関心事でもある。そこには、「これから」の人間・文化・社会について考えてゆく上でのヒントが隠されているかも知れない。上記の「授業内容」に示した（1）～（3）のポイントは、いずれもやや迂遠な方法に見えるだろうが、手間をかけて調べてみることに、原典にあたること、自身の思考をささえる言葉そのものに対して

意識的にすること、外からのまなざしに注意を払うこと等々によって、複眼的な思考の芽をはぐくむことを期待する。

ゼミの学生たちがとりあげる対象としては、文学、藝能、美術、音楽、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまで及ぶ。特に、日本から発信される文化が世界の人々からどのようにみられ、また評価されているのか、という点に関心を寄せる学生が多い。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2年春学期までの成績を参考にする
- ・面接を行う



(2017 年度 9 月に実施した合宿の様子)

授業内容

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになりました。近代主義的な理念で言えば、われわれはあらゆる個別的状況を離れ、一個の個人として各種の事実判断と価値判断をしていかなければならない、ということになります。しかしながらその一方、一人ひとりの生は所属集団や帰属集団のありようの影響を強く受けます。また、諸々の集団が織りなす文化の力によって、諸個人の意識と行動の多くが左右されているというのも言うまでもありません。さらに近年、エスニックなものにせよナショナルなものにせよ近代組織的なものにせよ趣味的なものにせよ、さまざまところで集合的な文化や集合的なアイデンティティが目立つようになってきました。

このゼミでは、こうした集団の力、文化の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していきます。国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などおよそあらゆる文化は広い意味での集団をベースにしていますし、他方、文化的な堆積物を欠いた集団というものもまずあり得ません。集団の探究と文化の探究は相即不離の営みと行うことができるでしょう。

そして集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくに際して、このゼミで主として依拠する学問は社会学です。つまり、社会学的想像力を駆使して集合的アイデンティティ現象の数々を読み解いていく、というのが本ゼミの目標にほかなりません。そのために、まずは社会学という学問それ自体に関する基礎的な鍛錬が重要になってくるでしょう。ただし、一つの学問的基礎をしっかりと修めたうえで、さらにその一歩先を目指し、学際的な視座を養って隣接諸学問との協働を行うのも、また学問的世界それ自体を超え出て生活世界そのものへと帰還ないし飛翔していくのも、とても大切なことだと思います。

このゼミは感性文化プログラムの中に位置づけられています。思えば、人が喜びに震え、哀しみに涙するのも、ただ一人でそうしているわけではありません。たとえその場では物理的に一人きりだったとしても、そこにはさまざまな関係的、集合的、文化的な背景が存在しています。その意味で、集合的な真空状態においてはいかなる感性も育まれません。集合的アイデンティティ現象に挑むこのゼミが、集合的に学問を修める場であるとともに、集合的に感性を磨く場にもなればと念じています。

シラバス

【3年生】

まずは社会学的想像力を鍛錬するため、基礎的な文献の講読を行います。またそれとともに、あるいはそのあとで各人の学問的関心をリサーチ・クエスチョンに鍛え上げ、グループ研究ならびに個人研究の可能性を探ります。グループ研究に関しては、サブゼミを構成して行います。春学期はここくらいまでかもしれません。合宿を行うかどうか、行うとしてどのようにするかは参加者で協議して決めたいと考えています。秋学期は、グループ研究ならびに個人研究を推し進め、それぞれの段階で報告を行うこととなります。最終報告はレポートの形で提出してもらうことになるかもしれません。

【4年生】

3年次での研究成果を基盤にしながら、ゼミ論の作成を目指し皆で鍛錬を重ねていきます。ゼミ論はもちろん個人で書くものですが、構想を練りリサーチを敢行し原稿に仕上げていく全ての段階において集合的な討議から学ぶべきことが少なくありません。

教科書・参考文献

＊山田真茂留『集団と組織の社会学』世界思想社.

＊山田真茂留（編）『グローバル現代社会論』文真堂（刊行予定）.

〔上の2つは前提的な知識や考え方の共有のために使用する予定です。参考書を使用する場合は、教場にて指示します。ただし次に掲げる文献は社会学的な文化研究の入門書として参考になるものと思われます。〕

＊井上俊（編）『全訂新版 現代文化を学ぶ人のために』世界思想社.

＊友枝敏雄・山田真茂留（編）『Do! ソシオロジー』有斐閣.

評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価します。

授業実施曜日・時限

【3年生】は火曜日の3時限、【4年生】は火曜日の4時限に登録されますが、合同で授業を行う場合がありますので、3時限・4時限の時間帯を通して空けておくことが望まれます。

履修モデル

文化構想学部ならびに文学部で開講されている社会学系の各種講義を履修することが望まれます。卒業までに担当者の受け持つ講義を2つ（半期×2）、またその他に学内のどの先生のものでも構わないので社会学系の演習ないし講義を2つ（半期×2）履修すること。

ゼミ紹介

社会学的想像力を鍛錬しながら集合的アイデンティティ現象に挑みます。授業内容の欄にも書きましたが、キーワードは集団、文化、そしてアイデンティティです。ただし社会的現実に対して学問的に挑戦しようとする真摯な姿勢さえあれば、集合的アイデンティティ研究に留まらず、広く現代社会論的な諸課題を探究していても構いません。

以下に先輩たちからの歓迎メッセージを添えます。

私たち山田ゼミは〈集合的アイデンティティ〉をテーマに、研究活動をしています。個人的な興味に基づいた自由なテーマを社会学という分野で深掘りし、楽しく研究できるところが大きな魅力です。3年生はサブゼミを組み、興味のあるテーマに関してフィールドワークを行います。4年生は個人でゼミ論を作成、報告しています。

山田ゼミには教授を筆頭にとっても和やかな雰囲気があり、ゼミ生同士の仲も課題や討論を通して深まっています。

社会学、全く触れたことがないな……という人でも大丈夫。今のゼミ生も大体そうです！ 知識や手法

は教授が、違った視点からの意見は先輩や同期が教えてくれる場です。

こんなこと、研究になるのか分からないけど……というあなたの興味を、山田ゼミで掘り下げてみませんか？ 見学をお待ちしています！



備考

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となります。ゼミという科目の性質上、出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになります。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書（必須）。／
- ・2年春学期までの成績を参考にする。／
- ・面接を行う。

12	担当教員	科目名	定員
	高橋 透	感性文化ゼミ（現代文明への視座） 副題： プログラム：感性文化論	10～15 名

授業内容

【3 年生】

学期に 1 回の各自のプレゼンテーションを通じて、2 年間かけて各自のゼミ論を作成してもらいます。

テーマ選択は自由。ぜひ自分の関心のあることに取り組んでください。社会に出る前に、ぜひ。

テーマの具体例：広告論。SNS 論。食文化論。異文化論。ファッション論。映像文化論。現代文化論（女性の社会進出、香りの文化、美人とは何か、イベント論ほか多数）。WEB 論。映画論。アニメ・マンガ論。文学テキスト分析。現代技術文化論（VR、AR、AI ほか）など。以上に限らず応相談。

【4 年生】

学期に 1 回の各自のプレゼンテーションを通じて、2 年間かけて各自のゼミ論を作成してもらいます。

テーマ選択は自由。ぜひ自分の関心のあることに取り組んでください。社会に出る前に、ぜひ。

テーマの具体例：広告論。SNS 論。食文化論。異文化論。ファッション論。映像文化論。現代文化論（女性の社会進出、香りの文化、美人とは何か、イベント論ほか）。WEB 論。映画論。アニメ・マンガ論。文学テキスト分析。現代技術文化論（VR、AR、AI ほか）など。

シラバス

【3 年生】

春期：各自テーマの紹介とプレゼンテーション。プレゼンのための工夫講座。基本文献の輪読など。

秋期：各自テーマの紹介とプレゼンテーション。プレゼンのための工夫講座。基本文献の輪読など。

【4 年生】

春期：各自テーマの紹介とプレゼンテーション。プレゼンのための工夫講座。基本文献の輪読など。

秋期：各自テーマの紹介とプレゼンテーション。ゼミ論を仕上げます！

教科書

【3 年生】

なし

【4 年生】

なし

参考文献

【3 年生】

教室で指示

【4 年生】

教室で指示

評価方法

【3年生】

各自のプレゼンと、それを基に提出する期末レポートを評価対象とする。

【4年生】

各自のプレゼンと、それを基に提出する期末レポート評価対象とする。

関連 URL

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】

金曜日・4時間目（3＋4年生合同）

【4年生】

金曜日・4時間目（3＋4年生合同）

履修モデル

ゼミ紹介

学期に1回の各自のプレゼンテーションを通じて、2年間かけて各自のゼミ論を作成してもらう。

テーマ選択はゼミ生の自由。（社会に出る前に、ぜひ自分の関心のあることに取り組んで欲しい。）

これまでの具体的なテーマ設定については、上記の「授業内容」の項目を参考にしてください。

ゼミ生によって見かけは様々にテーマが異なりますが、他人の発表を聞いて質問したり考えたりするうちに、どのテーマも自分のテーマと密接に関わり合っていることに気づくでしょう。それは自分のテーマを論じるのにおおいに刺激になり、参考になるはずです。多様性は現代において最重要なモチーフなのです。このようにして、一緒に作り上げていくゼミを目指しています。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		